

この新しい世界に慣れ
てきて、日
本の生活や
人々の考え



方についてたくさん学んだ。本当に感動したのは日本人は自然を非常に大事にすることだ。秋になるとみな紅葉を楽しみにしている。森はいつも散歩している人でいっぱい、その中にはハンガリーと違って、お年寄りも数多く見られる。もう一つハンガリーであまり見られないことは大学生が毎日六、七時間もアルバイトをしていることだ。初め日本の若者が電車でも、授業中にも、座っても、立っても、眠れることに驚いたけど、アルバイトのことを知ってあまり驚かなくなつた。

初めて日本の銀行でATMを使って、「いらっしやいませ」と挨拶された時、信じられなかった。「日本では、人間だけではなく、機械までもが、丁寧なんだ！」とびびくりした。十月にハンガリーから一年間留学するために奈良に来た私にとって、日本は全く新しい世界だった。車はハンガリーとは反対側を走っていた。店は見えたこともない食べ物でいっぱいだった。毎日驚かされ続けた。しかし、



ある国に住んでいたなら、その国の文化や生活についてたくさん学ぶのは当然だ。でも私は、奈良で日本のことだけ学んでいるわけではない。色々な国からの留学生と話している時、よく「あなたの国ではそれはどうですか」「あなたの国にそういうことがあるの」というような会話がされて、色々な国についての知識をふやした。奈良に来て、私の前に世界が開かれていくようだ。

私の前に
開かれた世界

エルテ大学
ジュラ・ペロニカ

ある国に住んでいたなら、その国の文化や生活についてたくさん学ぶのは当然だ。でも私は、奈良で日本のことだけ学んでいるわけではない。色々な国からの留学生と話している時、よく「あなたの国ではそれはどうですか」「あなたの国にそういうことがあるの」というような会話がされて、色々な国についての知識をふやした。奈良に来て、私の前に世界が開かれていくようだ。

派遣留学を終えて

卒業生 松田佳子

ドイツ語と友達の関係

昔、外国へ行くには言葉が一番問題で、大切であると思っていた。

実を言うと、よく留学できたなと思うほど、私の始めのドイツ語はひどいものだった。初日は電車の切符二枚買うのにも苦労し、学校での手続きも一人でできない有様であった。

ドイツ人と話

をするのは、とても勇気が必要だった。

何と言っても、話すスピードが、語

学学校でのものと全く違う。同じ寮に住んでいたドイツ人の同居人達と仲良くなるのに約半年かかった。

それは、丁度、私のドイツ語能力の向上と比例する。そして、人と話すこと、友達を作ることこそ一番大事なことは言葉ではない、と思うようになった。



また、遊びや旅行の計画も自分で立て、春休みに夜行列車で「人ヨーロッパ旅行に出かけたりもした。旅行中は更に、何かあっても自分の責任だ」という意識を強く持った。誰かが何かしてくれて、助けてくれると思うのは期待しすぎである。特に外国で、知り合いの少ないときには。日本ではいかにたくさんの人から助けられていたのが、しみじみ分かった。今後は、精神面だけでなく、経済面でも早くから自立するドイツ学生のように、私も早く一人前になりたいと思う。

つた。ある知り合いが「みんなドイツ語ができるかどうかでなく、人を見るんだよ。心配無いよ。」と言ってくれたのも、随分後になって思い出した。

自立すること

この一年間は、自分で自分の生活全てを決めることができたが、同時に全ての責任を自分で受け持った。これが自由であり、自立であるのかと、強く感じた。

ドイツでは、大学や市役所などの手続きなど、すべて自分でしなければならなかった。ドイツ語が不十分であっても関係ない。